

高退協ニュース

No.233
2021年11月2日発行
高退協事務局
高知事務

〒780-0850

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目1-10
高知城ホール高教組気付
連絡先 TEL 088(822) 6822
郵便振替口座 0165032511893



第66回高知県母親大会(全体会)に参加して

宮地 由美

10月10日(日)、第66回高知県母親大会(全体会)が開催されました。昨年は、コロナ禍のため開催されず、今年も10月3日に予定されていた分科会が中止となっていました。全体会は、新型コロナウイルス感染症対策を取って、メイン会場は参加者数を制限し、各地域会場や個人へのオンライン開催となりました。私はメイン会場の高知城ホールで参加し、人数は35人くらいで、男性の参加者も多かったです。各会場を合わせると200人近かったのではと報告がありました。

文化行事は、紙芝居「ピキニの海のねがい」上映でした。ピキニ環礁での水爆実験の実態や、県内の高校生が取り組んだ聞き取り調査、高知県のマグロ漁船の被災や元船員の現状などがコンパクトに表現されていました。紙芝居の利

用を通して、この事実が子どもたちにも広く伝わっていくとよいと願います。

記念講演は、高退協会員であり、太平洋核被災支援センター事務局長、幡多高校生ゼミナール顧問の山下正寿さんによる「核のない平和で豊かな未来へのパトントンタッチ」女性・母親・青年と共に学校・地域から参加と共同のネットワークづくりを行いました。

ピキニ問題についての山下さんのお話は、今までに何度か伺ったことがあります。今回はより詳しく知ることができたと思います。

1954年のピキニ核実験被災では、静岡県のマグロ漁船「第五福竜丸」の被曝はよく知られていますが、高知の漁船の被災や船員の実態について、山下さんが「幡多高校生ゼミナール」を立ち上げ、高校生とともに調査を行い、広く知られてきたことは、科学的に粘り強い活動の成果だと思えます。

このピキニ核実験被災から1年も経たないうちに日米政府間の政治決着が図られ、被災に関するすべてのことが開示されたこと、船員たちの健康が確認されたこと、日本政府は追跡調査もせず、その後漁船の航行を止めないままに、マグロの被曝は検査したけれど、船員たちの健康は検査していません。驚きと恐ろしさを感じました。

被災船員の救済については、取り組みが続いています。2016年に被災船員と遺族の方1名で船員保険の労災認定の申請をしたものの、全員不支給の決定がされました。しかし、昨年3月に高知地裁にその取り消しを求めて提訴しているそうです。ピキニ事件を意図的に隠し続けていた国の継続的・不法行為を問うた「ピキニ国家賠償請求訴訟」は棄却となりましたが、判決

では漁船員たちの被曝を認定し、行政や立法による救済の必要性に言及したことは、救済への道の可能性が示されました。また、日米両政府が200万ドルの見舞金での政治決着を図り、第五福竜丸を除く被災船員が米国に被災救済を求める権利を日本政府が奪ったことに対して、憲法29条に基づく損失補償を求める訴訟も起こしているそうです。

ピキニ核実験被災訴訟原告で遺族である増本さんと下本さんの当日の報告は、核被災の事実を伝える切実な生の声でした。

核廃絶や被災者救済に向けては、世界とつながり前進が見られているのは嬉しいことです。今年の「核兵器禁止条約」発効、「黒い雨」高等判決に対する国の上告断念、米国の被爆者保障法の改正の動き、「世界核被害者フォーラム」の今年の国際会議参加予定、来年開催の「第2回ピキニデーin高知」などです。

青年へのパトントンタッチについては、足元の歴史と現実を見つめ、世界につながる視点をもつて学び仲間をつくること、高校生は生徒会、大学生は自治会の活動を強め、主体的参加や改革する体験を持つこと、教職員の多忙化は環境改善を社会的課題として地域社会に発信していくことなどのお話がありました。

女性・母親・青年の参加と共同のネットワークの取り組みでは、大学との地域課題解決に向けた参加・提案型学習、地域資源の活用による青年・移住者や学校・協同組合と連携などのお話がありました。

第1回日本母親大会はピキニ環礁での水爆実験の翌年(1955年)に開かれ、第五福竜丸船員の久保山愛吉さんの未亡人です。私も涙ながらに訴えたそうです。今回、母親運動の原点であるピキニ核実験被災の現状を知り、平和についての思いを強くし、様々な連携やネットワークを構築させる必要性も改めて感じました。

※幡多会場の報告(記事) 川村喜美は2面右にあります。

先輩訪問

川村かつ枝さん

高知市



訪問者・記事 上村文香

先輩訪問第二弾は、元気印の川村かつ枝さんです。私は、職場が一緒だったこともあり、かつ枝というお名前は、一世を風靡した純愛ドラマ「愛と死を見つめて」の主題歌を歌っていた高石かつ枝さんになんてつけられたとお聞きしました。

九月二十日敬老の日に、一宮の「なつき」で行われていた川村さんは、在職からさおり織りをされていて退職後は年に二回作品展を開いているそうです。今回の作品展は、コロナ感染者急増中ということで案内のハガキ、宣伝も一切無しで行われました。私は、



たまたま「なつき」でつながっていたので作品展のことを知り、家の近くでもあるので孫を連れて見にいきました。

会場の福祉コミュニティ「なつき」は、土佐希望の分校に勤務していた時の教え子だったなつきさんから命名された素敵な会場です。建物の周りには、四季折々の草花が咲き小川が流れ、木々には鳥の巣箱がかけられていて難がかるそうです。お母さんも多趣味な方で、さおり織り、パッチワーク、刺繍、洋裁と沢山の手作り作品が並んでいました。

会場には、「コスモス畑」「コバルトブルーの季節の中で」「曼珠沙華の野」「満月の散歩」「さくら咲く」「かざぐるま」などの季節感に溢れたタペストリー、さおりを配したTシャツ、様々なデザインのパストやチュニック、色とりどりのショール等が並んでいました。他にもポーチ、

川村さんの作品



祝 西緑さん 日展(日本美術展覧会)二度目の特選

西緑さんが改組新第8回日展・工芸美術の部で特選を受賞しました。2017年第4回に次いで二度目の特選となります。日展のホームページでは授賞理由が掲載されていたので、高退協ニュースに転載しました。なお、日展は東京・国立新美術館で10月29日から11月21日まで開かれます。(編集部 大川法由記)

第8回日展 工芸美術
題名 明日に繋ぐ 作者名 西緑
特選授賞理由
思いも寄らない事態が起る現代、人間はみな自然への畏怖を感じると共に明日を信じ希望を持っています。そんな力を多種多様な赤でイメージし、自然の力を白い流れで表現した繊細な力強い作品です。(日展ホームページより)

哀悼
能勢 栄虎 さん
2021年10月19日逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。